



トウモロコシサイレージ多給による飼料費低減技術



輸入飼料の高騰等により、酪農経営は厳しい状況が続いています。そこで、自給飼料であるトウモロコシサイレージ（CS）を多給することにより、飼料費を低減する技術について検討したので、その結果を紹介します。

試験内容

CSの割合を給与乾物中**45%**に高めたTMR給与がフリーストール牛群の乳生産に与える影響



試験に使った牛：様々な泌乳ステージのホルスタイン種乳牛が混在するフリーストール牛群（125頭）。

試験区：CSの給与割合によって2つの試験区を設定しました。

【対照区】60頭
乾物飼料中30%
原物27kg

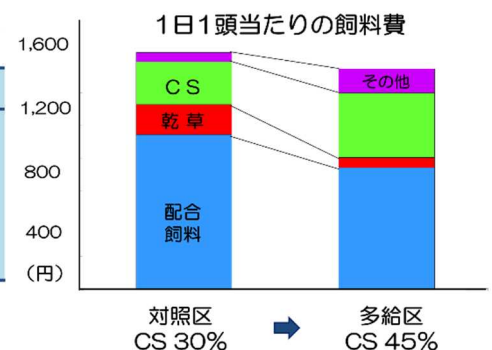
【多給区】65頭
乾物飼料中45%
原物41kg

試験結果

表. 試験成績（1日1頭当たり）

	対照区	試験区	
乳量 (kg)	35.3	36.5	両区で差なし
乳脂率 (%)	4.13	4.13	両区で差なし
飼料費 (円)	1577.3	1478.4	試験区で6.2%コストカット
乳飼比*	52.4	47.0	試験区で5.4%コストカット

*乳飼比：乳代に占める購入飼料費の割合のことで、経営の指標となります。



これらの結果から

CSを給与乾物中**45%**（原物で約**40kg**）給与することにより、乳生産を維持し、飼料コストを低減することが可能です！

CSを多給する際は、採食量が低下していないか、1頭ずつ十分な観察が必要です。また、乾乳期のCSの与えすぎは栄養過多となり、ケトosis等の代謝障害を引き起こすことが他の研究で報告されています。乾乳期にもCSを給与する際にはボディコンディション・スコア等に注意し、過肥とにならないように注意しましょう。